

昨年より「増えそう」が増加するも、消費には慎重

～2013 冬のボーナス予想調査～

政権交代からはや 1 年、今年はまさに“アベノミクス”効果に沸き立つ年であった。日銀の大規模金融緩和による株価の急回復等を背景に消費者心理は好転し、高額品の売上が好調となるなど、景気に浮揚感が漂い、また、来年 4 月から実施される消費増税前の駆け込み需要により、住宅市場も盛り上がりを見せるなど、消費が景気回復の牽引役ともなった。しかしながら、円安・資源高の影響で、食品を中心に値上げが相次ぐ中、消費増税が及ぼす今後の家計圧迫への懸念も大きい。

このような状況の中、当研究所では、今冬のボーナスについてアンケート調査を実施した。「冬のボーナス調査」は今回が 22 回目となるが、一昨年から調査方法をインターネット調査に切り替えている。

【調査結果の概要】

1. 今年の冬のボーナス予想は、昨年と比べて「ほぼ同じ」が昨年に比べ 12.6 ポイント（以下、p）増の 63.8%で最も高く、「増えそう」は 4.9p 増の 13.6%、「減りそう」は 17.4p 減の 22.6%となり、昨年よりも支給状況は改善すると思われる。
2. ボーナスの使いみちでは、昨年に続き、「貯蓄・資産運用」（61.5% 昨年+0.8p）が最も多く、「ローン・借金の返済」（35.2% 同+1.4p）、「買い物」（34.2% 同▲4.3p）と続いた。昨年 3 番目だった「生活費補填」（33.5%）は、昨年と比べて▲4.6p の 4 番目となった。
3. ボーナスの使いみちとして最も回答の多かった「貯蓄・資産運用」の中で、具体的に選ぶ商品は「預貯金」が 93.1%と圧倒的に高かった。

【調査概要】

1. 調査対象：熊本県内在住 20～50 代のボーナスを支給された、あるいは支給される予定の人（世帯）
2. 調査時期：2013 年 11 月 1 日～7 日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：403 人
5. 回答者の属性（人・%）

	未既婚			年代				勤務先*			
	全体	未婚	既婚	20代	30代	40代	50代	公務員・独立行政法人	民間事業所・団体 (本社熊本県内)	民間事業所・団体 (本社熊本県外)	その他
全体	403 100.0	88 21.8	315 78.2	79 19.6	116 28.8	104 25.8	104 25.8	94 23.3	197 48.9	106 26.3	6 1.5
男性	195 100.0	49 25.1	146 74.9	27 13.8	64 32.8	52 26.7	52 26.7	49 25.1	91 46.7	54 27.7	1 0.5
女性	208 100.0	39 18.8	169 81.3	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	45 21.6	106 51.0	52 25.0	5 2.4

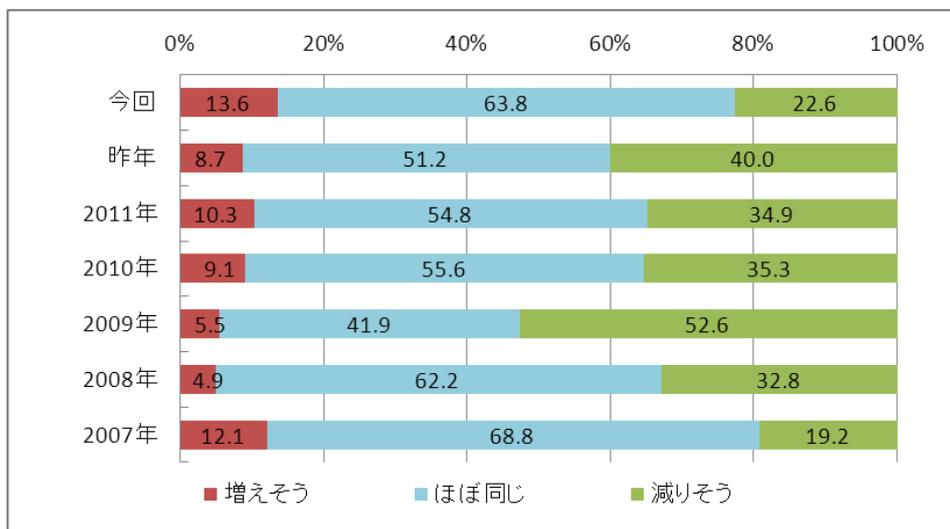
勤務先*：未婚者には自身の勤務先を、既婚者には主に家計を担っている人の勤務先を尋ねた

1. 今年の冬のボーナス予想

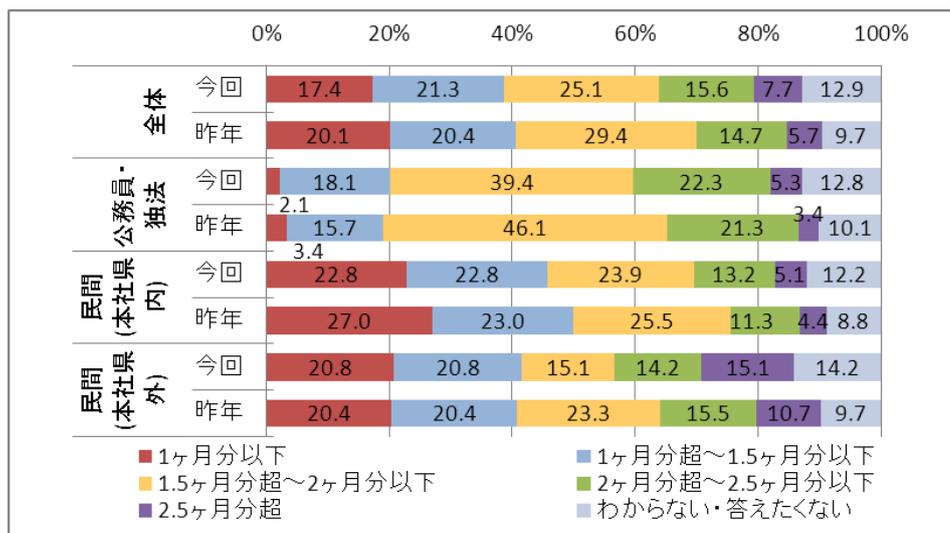
今年の冬のボーナス増減予想は、「ほぼ同じ」が昨年と比べて 12.6p 増の 63.8%と最も高く、次いで「減りそう」が 22.6%、「増えそう」が 13.6%であった。「増えそう」は過去 7 年間で一番高い割合となり、「減りそう」も昨年と比べて▲17.4p と大幅に減少したことから、“アベノミクス”効果により、昨年よりも支給状況が改善傾向にあることがわかる（図表 1）。

次に、支給月数の予想では、「1.5ヶ月分超～2ヶ月分以下」が 25.1%と最も高く、昨年同様に全体の約 4 割が「1.5ヶ月分以下」と予想している。全体的には、「2ヶ月分超」で 2.9p 増加するなど、支給額は増加傾向にあると思われる。勤務先別にみても、昨年から大きな変化はないものの、「2ヶ月分超」が全体的に増えていることがわかる（図表 2）。

図表 1 ボーナスの増減予想推移



図表 2 ボーナスの増減予想（勤務先別）



2. ボーナスの使いみち

次に、図表 3 でボーナスの使いみちをみると（複数回答）、「貯蓄・資産運用」が 61.5%と最も高く、2 番目に「ローン・借金の返済」（35.2%）となっており、「買い物」（34.2%）、「生活費補填」（33.5%）と続いている。

昨年 3 番目だった「生活費補填」は、4.6p 減少して 4 番目となっており、昨年ほどの家計の引き締め感は見られないものの、「買い物」も 4.3p 減少しており、「貯蓄・資産運用」は+0.8p の微増であることから、支給状況が改善しても、消費には慎重であり、貯蓄や資産運用に回す傾向にあると思われる。来年からの消費増税を見込んでの動きとも考えられるが、増税が迫るにつれ、一時的な駆け込み型の消費が増えることも予想される。また、「国内旅行」を予定している人は全体の 1 割強と人数自体は多くはないが、昨年+2.7p と増加率は最も高かった。

図表 3 ボーナスの使いみち (% 複数回答)

順位	使いみち	今回	昨年	差(p)
1	貯蓄・資産運用	61.5	60.7	0.8
2	ローン・借金の返済	35.2	33.8	1.4
3	買い物	34.2	38.6	-4.3
4	生活費補填	33.5	38.1	-4.6
5	子供の教育費	17.1	21.6	-4.5
6	外食	13.9	14.4	-0.5
7	保険料支払	12.4	12.2	0.2
8	国内旅行	10.9	8.2	2.7
9	自己投資	3.5	4.2	-0.8
10	住宅補修・改修	1.7	2.7	-1.0
11	海外旅行	1.5	2.2	-0.7
12	その他	2.2	4.2	-2.0
13	未定	6.5	4.5	2.0

ボーナスの使いみちについて、図表 4 で男女別にみると、女性では、「買い物」、「外食」、「国内旅行」といった娯楽への消費意欲が男性よりも高く、逆に男性では「貯蓄・資産運用」、「ローン・借金の返済」といった現実的な支出への意識が高くなっており、使いみちに対する男女での意識の違いが浮き彫りとなった。やはり個人消費の牽引役は“女性”といったところである。

また、昨年は、「貯蓄・資産運用」では、女性が男性より高かったものの、今年は男性で 63.1%と女性(60.1%)より高くなっていることから、アベノミクスによる景気回復基調を受け、投資等に目を向ける男性の割合が昨年よりは増えているのではないかと考えられる。

図表 4 ボーナスの使いみち (% 男女別)

	1位		2位		3位		4位		5位		6位		7位		8位	
	今回	昨年														
男性	63.1	58.2	37.9	36.1	28.7	30.9	34.4	35.6	20.0	21.1	9.2	9.8	9.2	11.3	9.2	6.2
女性	60.1	63.0	32.7	31.7	39.4	45.7	32.7	40.4	14.4	22.1	18.3	18.8	15.4	13.0	12.5	10.1

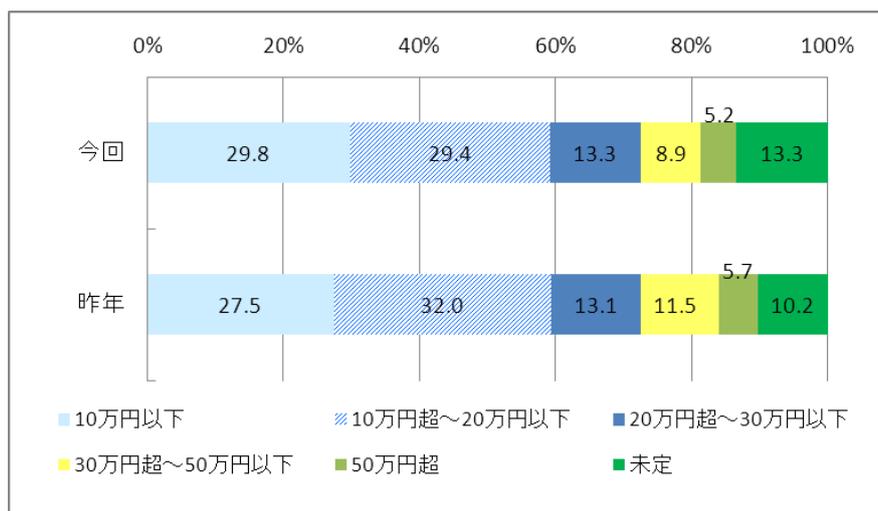
3. 「貯蓄・資産運用」、「買い物」の予定について

ボーナスの使いみちとして「貯蓄・資産運用」を選んだ248人に対して、「貯蓄・資産運用」への総額を尋ねたところ、「10万円以下」が29.8%と最も高く、次いで「10万円超～20万円以下」が29.4%となった。昨年と同じく、「20万円以下」で半数強を占める形となり、貯蓄・資産運用に充てる額についての大きな変化はみられなかった（図表5）。

さらに、具体的に選ぶ商品を探ねたところ、預貯金が93.1%となった。昨年は預貯金が98.0%を占め、「貯める」意識が圧倒的に高いという印象であったが、今回は株式が昨年と比べて2.4p増の6.9%となり、全体からすればわずかな傾向ではあるものの、株価が回復している背景もあり、図表4で示したように、男性を中心として、昨年よりは投資意欲が回復してきていると思われる（図表6）。

このように、今年の冬のボーナス予想においては、「減りそう」が大幅に減少し、昨年と比較すると支給状況は改善傾向にあると思われる。しかしながら、円安・資源高による物価上昇や消費増税も間近に控え、ボーナスは消費というよりも貯蓄や資産運用に充てるといった慎重な動きがうかがえる結果となった。

図表5 貯蓄・資産運用への総額（今回 n=248, 昨年 n=244）



図表6 貯蓄・資産運用で選ぶ商品（複数回答 今回 n=248, 昨年 n=244）

